

輪之内中学校 保護者 様

輪之内町立輪之内中学校
校長 寸田 良隆

「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果と学力向上の取組について(お知らせ)

保護者の皆様におかれましては、平素より本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
 本校では、生徒一人一人が学習内容の確実な定着を図るとともに、仲間と協働して課題解決に取り組むことができるよう、指導方法の工夫改善に取り組んでおります。この度、3年生を対象に4月に実施された本調査の結果分析を行い、本校における取組について改善の方向を取りまとめましたのでお知らせします。
 なお、本調査が国語、数学、英語に限られていることや、テストだけでは把握することが難しい学力もあることなど、調査結果から分かる学力の実態は限定的であることについて御承知願います。

1 調査の内容について(対象学年:第3学年、実施期日:令和5年4月18日)

教科に関する調査	知識 技能 活用	国語 数学 英語	<ul style="list-style-type: none"> 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい「知識・技能」など 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など
生活習慣や学習環境に関する質問紙調査			<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

2 教科に関する調査について

(1) 結果分析

概要

- 国語、数学、英語の平均正答率は、いずれも県平均、全国平均を上回る結果であった。
- 国語、数学は無回答率が低く、県及び国の平均を下回っている。
- ▼ 英語(話すこと)の平均正答率は全国平均と同程度であるが、無回答率は全国平均を上回っている。

国語

- 「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる力」や「文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する力」の正答率は高く、県及び全国平均を上回った。
- ▼ 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる力」や「意見や根拠など情報と情報との関係について理解する力」を問う問題の正答率は、県及び全国平均を下回った。

数学

- 学習指導要領の領域別では、「数と式」の正答率が高く、県及び全国平均を上回った。また、「四分位範囲(データの広がり)の意味を理解する力」や「数と整式の乗法の計算ができる力」を問う問題の正答率は高く、県及び全国平均を大きく上回った。
- ▼ 図形領域の知識・技能において、「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解する力」を問う問題の正答率は低く、県及び全国平均を下回った。

英語

(聞くこと・読むこと・書くこと)

- 「社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができる力」や「未来表現の肯定文を正確に書くことができる力」を問う問題の正答率は高く、県及び全国平均を大きく上回った。

(話すこと)

- ▼ 学習指導要領の領域別では、「話すこと(発表)」の正答率は低く、全国平均を下回った。また、全ての設問に対して、無回答率が全国平均を上回った。

(2) 授業改善の具体的な手立て

◆学習集団づくり

- ・ 学習姿勢の向上に生徒が主体的に取り組めるように、「最高の授業」の具体について各学級で意見交流をしたり、学習委員会や教科係会が中心となって日常活動を計画したり、継続した取組を行う。
- ・ 誰もが安心して学習に臨めるように、かがやき見つけ等で仲間のよさを認め合い、自由に自分の考えを話すことができる集団をつくる。

◆仲間と協働して課題追究に取り組む学習活動の工夫

- ・ 一人一人が自分の考えをもてるような発問、資料を準備したり、ペア交流やグループ交流の機会を意図的に位置づけることで、自分の考えを説明したり、仲間と交流して意見をまとめたりできるようにする。
- ・ タブレットを活用した資料提示や意見交流など ICT を活用した学習活動を工夫し、主体的に学ぶ姿を引き出す。

◆授業の終末を工夫

- ・ 学習内容を復習する時間を設けたり自分の言葉でまとめたりするなどして学習の定着を図る。
- ・ 学習内容を深めることができるよう発展的な学びを示唆したり実生活での活用を助言したりする。

(3) 家庭学習の指導

- ・ 「生活記録」と「自主学習」の提出、教科のワーク(副教材)の活用方法を指導する。
- ・ ミライシードを活用した反復学習を指導する。
- ・ テスト後には解き方や学習方法の指導を行い、理解が不十分だった内容を身に付けられるようにする。

3 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査について

(1) 調査結果について(抜粋:「あてはまる」と回答した生徒の割合)

質問項目	本校(%)	岐阜県(%)	全国(%)
自分には、よいところがあると思う。	40.0	39.2	37.2
学校に行くのは楽しいと思う。	50.6	44.7	43.3
将来の夢や目標を持っている。	41.2	39.8	39.4
人が困っているときは、進んで助けている。	47.1	42.7	38.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	87.1	81.6	80.3
人の役に立つ人間になりたいと思う。	71.8	73.3	71.7
家で自分で計画を立てて勉強をしている。	14.1	18.7	15.3
今住んでいる地域の行事に参加している。	7.1	21.0	12.2
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	16.5	23.0	19.6
新聞を読んでいる。	2.4	3.3	2.5
読書は好き。	31.8	35.6	35.2

(2) 結果分析と今後の取組について

- ・ 「自分にはよいところがある」や「学校に行くのは楽しいと思う」については、県、全国平均を上回り、4割から5割の生徒が「あてはまる」と回答している。自信をもって肯定的な回答をする生徒が増えたことは、自己肯定感を高める学校での取組、家庭での継続した認めや励ましなどの成果として認められる。
- ・ 「人が困っているときは、進んで助けている」や「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」については、人権教育の充実やかがやき見つけ等を通して、違いを認め合い、分かり合って協働できる人間関係作りを進めてきた成果が出ていると考えられる。
- ・ 「今住んでいる地域の行事に参加している」や「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」は、県、全国平均を下回っている。地域や小学校区の行事が徐々に再開する中で、積極的にボランティアに参加し、地域に貢献できる機会を広げていく必要がある。
- ・ 新聞を読むことや読書の回答から、読書の時間の充実、図書館利用の推進、教科の学習での新聞の活用など、学習内容の実生活での活用や生涯にわたって学び続ける力を身につけさせる必要がある。